

# 宇和島のコンブ収穫祭に参加して

**村上 隆久**  
(海の森づくり推進協会幹事)

## コンブ収穫祭に参加

今回、宇和島のコンブの収穫祭に参加した私たちは、宇和島市築地町にある県漁連宇和島支部の魚市場の前から2隻の船に乗せていただき、宇和海で育ったコンブを収穫するために漁場に向かいました。3月22日、よい天気恵まれ朝日に照らされた宇和島の海や周囲の山々、島々を眺めながら、この入り組

んだリアス式海岸のすばらしさを満喫しました。

しばらく船が進んで行くと沖合いにタイやハマチを養殖している生簀がたくさん並んでいるのが見えてきました。船がお魚を養殖をしていない生簀に接近してくると大きく成長したコンブが海中でゆれているのが見られました。

昨年12月に北海道から送られてきたコン

NPO 団体

『環境律市 宇和島

宇和海に緑をひろげ環境を守る会』

ホームページのメイン写真



ブの種糸を5センチくらいに切って、それをロープの間に挟んで、この生簀にセットしたのです。それがもう4ヶ月くらいで2メートル~2メートル50センチものコンブに成長しているのです。

コンブが成長したロープを次々に生簀からはずして、これを束ねて船上のクレーンで引き上げると、船上のみなさんは“うわー”、“すごいなあー”と驚きの声をあげながらカメラで写真を撮りました。収穫されたコンブで船の中はコンブの山となり、再び港に帰ってきました。

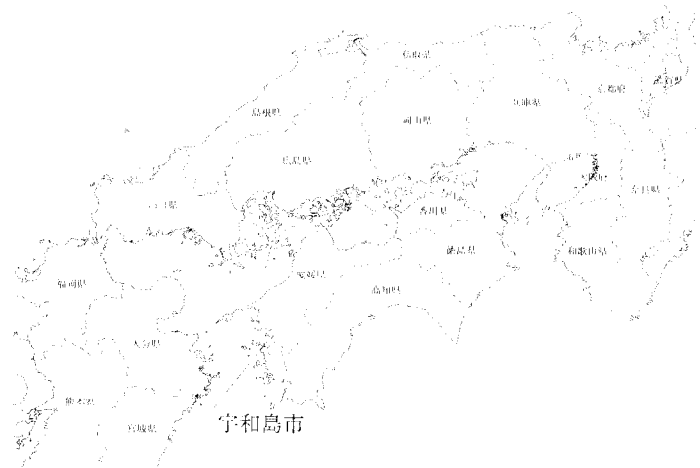
帰ると魚市場の広い広場にはもう大勢の地元の方々が、婦人たちや学校の生徒や子供たちがにぎやかに待っていました。

“こんぶ収穫祭”の会場には色とりどりの大漁旗がたくさん飾られおり、入り口には大きく「こんぶ収穫祭」と大書した横断幕が張られていました。

### 古谷和夫会長が挨拶

いよいよ10時からこんぶ収穫祭が始まりました、開会の挨拶は「宇和海に緑をひろげ環境を守る会」の会長古谷和夫さんが、「宇和海をきれいにするために私たちが育てたコンブが今年も大きく成長しました。多数の皆さんがこんぶ収穫祭に参加していただきありがとうございました。今年も東京から「海の森づくり推進協会」のみなさんが10名も参加していただきました。」と挨拶され、みなさんに紹介されました。

広場にはビニールシートが敷き詰められ、収穫された大量のコンブが船から陸上に水揚



げされました。

そして最後は収穫されたコンブの試食会が、子供たちが広場に用意したたくさんのテーブルや椅子で、ご婦人たちが収穫されたコンブをたくさん入れてつくったうどんをみなさんでおいしくいただきました。

どうして宇和島の海でこんなにしてコンブを育てているのでしょうか。

「宇和海に緑をひろげ環境を守る会」の会



長をされている古谷和夫さんは、宇和島の遊子漁協の組合長をされていた方です。宇和島の遊子は、海の背後がすぐ山になっており、山は上の方まで段畑があります。この地域には平地がほとんどなく、すぐ前が海になっているのです。人々はまさに海によって生かされているのだと実感されます。

漁業と漁協 2010・5

12年前に、この海で養殖真珠貝が大量に斃死したことがありました。古谷さんはその時に、海の環境を守り、養殖業を続けていくために、法律を一本作ろうと取り組まれたのです。それが現在も知られている「持続的養殖生産確保法」です。漁協の組合長さんで法律を作られたという事例はめずらしいと思います。古谷和夫さんはこうだと考えたことを実行される人です。

その後もこの地域の人々の生活の根拠地である宇和海では、真珠貝が斃死したり、養殖魚に魚病が発生したり、赤潮被害があり、いろんな漁業被害を受けてきているのです。

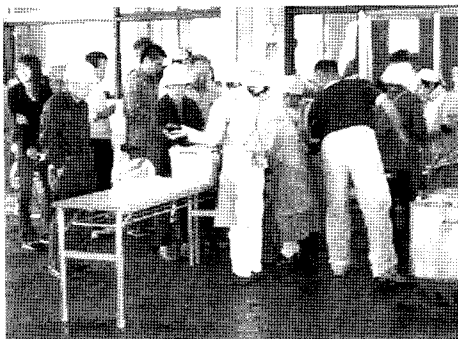
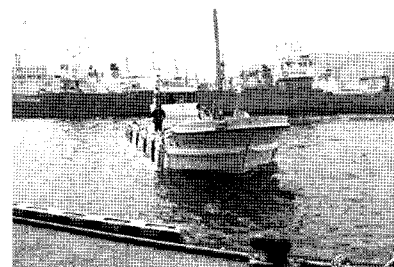
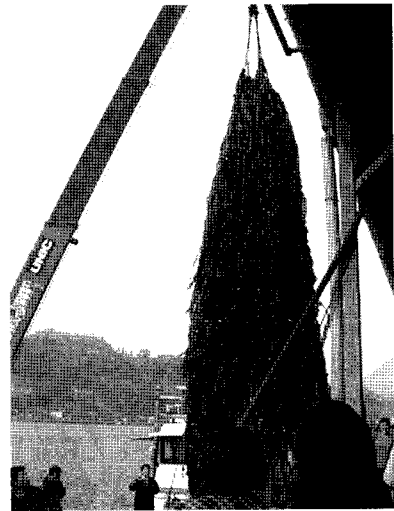
しかし、こうした漁業環境の悪化に対して、海を生産の場としている漁業者のみなさんは、自分達は漁場環境汚染の被害者であるが、反面、魚類養殖などによる漁場環境汚染の加害者でもあるのだという認識をされているのです。

だからこそ、自分たちは海の汚染を防止し、この海を青々とした生産力のある宇和海に回復させなければならないのだということです。そうした漁場環境の再生を目指して「地球の環境改善は、まず、海の浄化から始めよう」との呼びかけをして、平成15年に「宇和海に緑を広げ環境を守る会」を設立したのです。現在、この会の正会員は29名、団体会員は25団体、賛助会員が158名となっていますが、

こうした活動取り組みについて関係漁業者のみなさんは、「私たちは、海へのお返しをしているのです」と云っておられるのです。

NPO法人「宇和海に緑を広げ環境を守る会」は、「宇和海の環境汚染を防止し、海の浄化をはかるための学習や普及を進め、子々孫々の代まで宇和海を守り、あわせて宇和海の活性化に寄与すること」を目的としているのです。

## 海藻の栽培によって解消



この会の具体的な活動取り組みは、平成15年の学習会で、鹿児島大学の門脇秀策教授が「魚介類の養殖による負荷は、養殖漁場と同面積の海藻の栽培によって解消される」との研究成果の説明をされました、これが動機となってコンブの森づくりの具体的な活動取り組みがなされるようになったという。

その後も毎年12月に、北海道からコンブの種糸を取り寄せ、宇和海周辺の海域でコンブの森づくりの活動を続けているのです。私は7年前にこの活動のスタート時点でみなさんにどうかこの運動を10年間は続けて下さいとお願いしたことを思い出しています。

この地域のコンブの森作り活動の特長は、このところも毎年コンブの収穫時期の3月末に地域のみなさんや子供たちに参加してもらい、「コンブの収穫祭」を開催していることです。子供たちはコンブを観察したり、測定するお手伝いをしているのです。収穫祭では成長したコンブを収穫すると同時に、コンブの試食会やコンブ養殖の目的や意義について

の学習会も開いています。

また、一年おきに開催している講習会は、1回目は「宇和海漁業再生への道」について門脇秀策先生が、2回目は、「コンブで人も海も元気になろう」と題して久原水産研究所長の久原俊之さんが、3回目は「宇和海を元気にする海の森づくり」について、海の森づくり推進協会の松田恵明代表理事が参加して開催されました、こうした講習会によりコンブの森づくり活動に対する地域の皆さんの理解が深められてきているのです。

そうした意味からも「宇和海に緑を広げ環境を守る会」の活動はまさに全国的にモデルになる取り組みがなされていると思います。「宇和海に緑を広げ環境を守る会」の今後の課題は、こうした活動を全国的な漁民運動として発展させていきたい。また、一般の市民に参加の呼びかけをおこない、自分たちが参加して今すぐにできるコンブの森づくりの活動を、これからは漁業者と市民が参加した運動としてさらに発展させていきたいということです。



#### 編集部より

本稿の写真は、執筆者である村上氏の了解の元、「収穫祭」のイメージとして掲載いたしました。掲載されている写真は、本NPOホームページならびに関連ブログより拝借しております。